

流れ藻観測速報

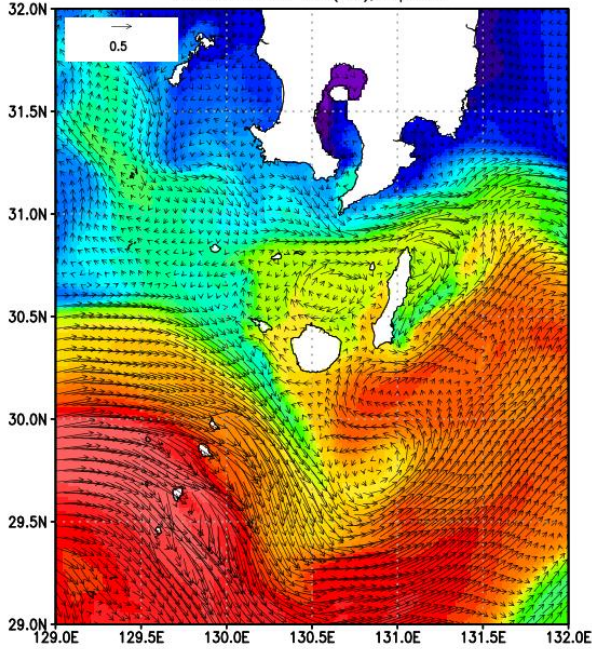
鹿児島大学水産学部水圏科学分野
20220329

観測期間: 2022年3月26日~28日

観測船: 南星丸

観測海域: 北部薩南海域

Bckgr: Potential Temperature at Model Level [C]+Sea Current at Model Level [m/s];
20220327 09:00 JST (ANL); Dep=1 m



解説

鹿児島大学水産学部では、薩南海域へ来遊する流れ藻の漂流予測を目指した研究を行っている。モジャコ業の漁期前・漁期中において、薩南海域に来遊する流れ藻の情報を漁業者に提供するため、鹿児島大学練習船を使って、北部薩南海域（大隅海峡・鹿児島湾口部）の流れ藻観測を3月17日~3月23日に実施した。

観測期間中、黒潮はトカラ海峡を北西から南東に向かって流れていたが、黒潮流軸の位置はやや南寄りであった。また、黒潮から派生したと考える暖水域が屋久島・ロ永良部島・硫黄島・竹島付近に、東シナ海陸棚域から移流したと考えられる冷水域がロ永良部島西部から南部に認められた。DR_Eでは、鹿児島湾口部付近に九州沿岸の冷水域と上述の黒潮から派生した暖水域の間にフロントが見られた。このフロントを横断するように、鹿児島湾口部から竹島へ流れ藻観測を行ったが、フロント付近に流れ藻が発見され、これまでの流れ藻観測において最多の流れ藻が発見された。

今後、4月3日~7日にも同様な流れ藻観測を行う予定である。

図1. 鹿児島大学工学部によって運用されている高分解能海洋モデル (DR_E) における流れ (矢印) および海表面水温 (赤~青) の3月27日の結果 (ホームページより引用)。

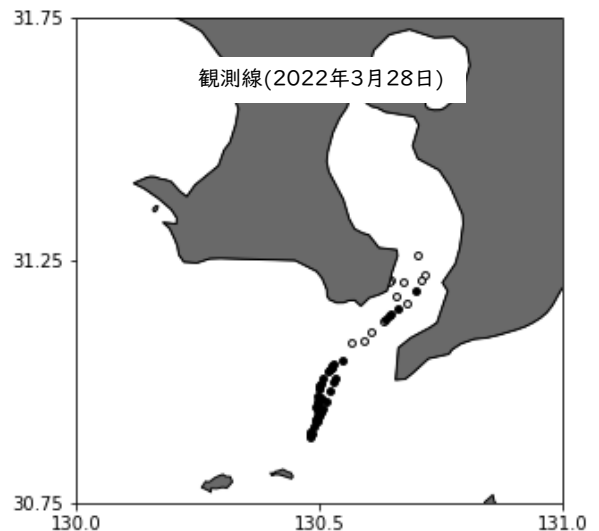
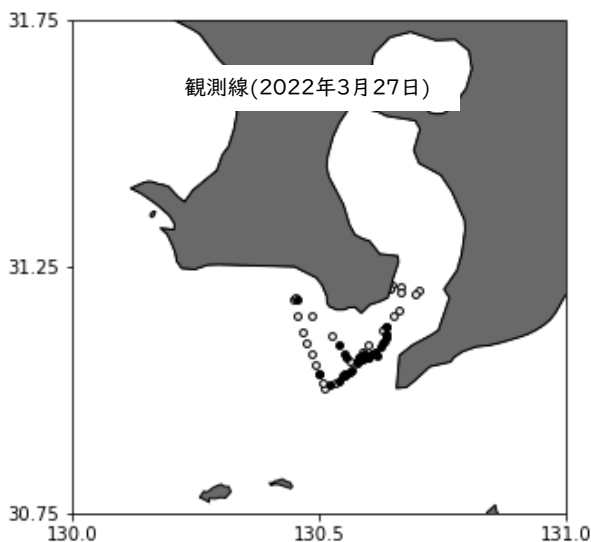


図2. 鹿児島大学練習船南星丸による流れ藻観測結果。白丸は流れ藻が発見されなかった地点、黒丸は流れ藻が発見された地点を示す。